

環境影響監視結果の概要

平成26年度に実施した高浜原子力発電所周辺の環境影響監視結果の概要は次のとおりでした。

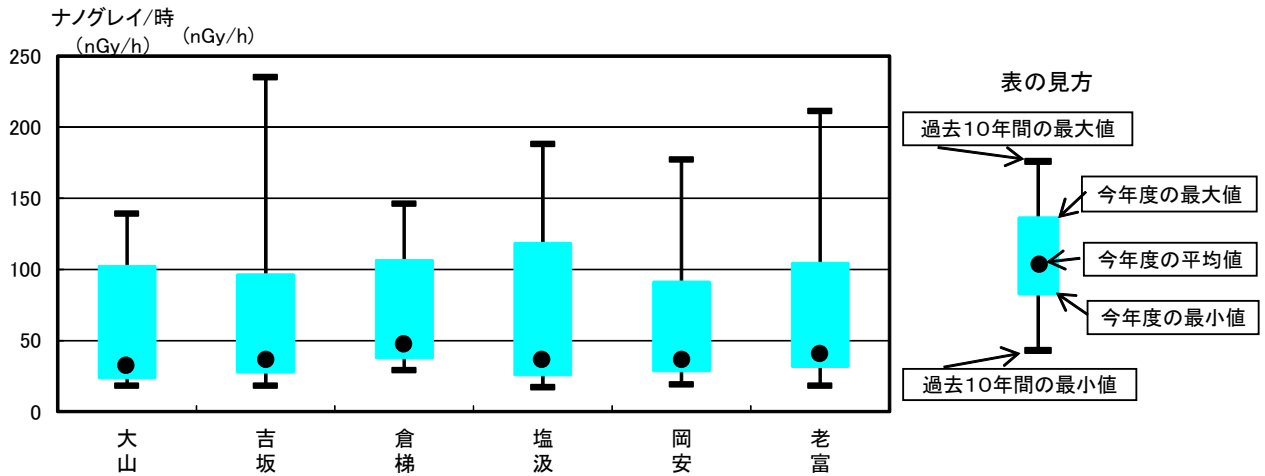
1. 環境放射線監視結果

☆空間線量モニタリングについて

空間放射線量率

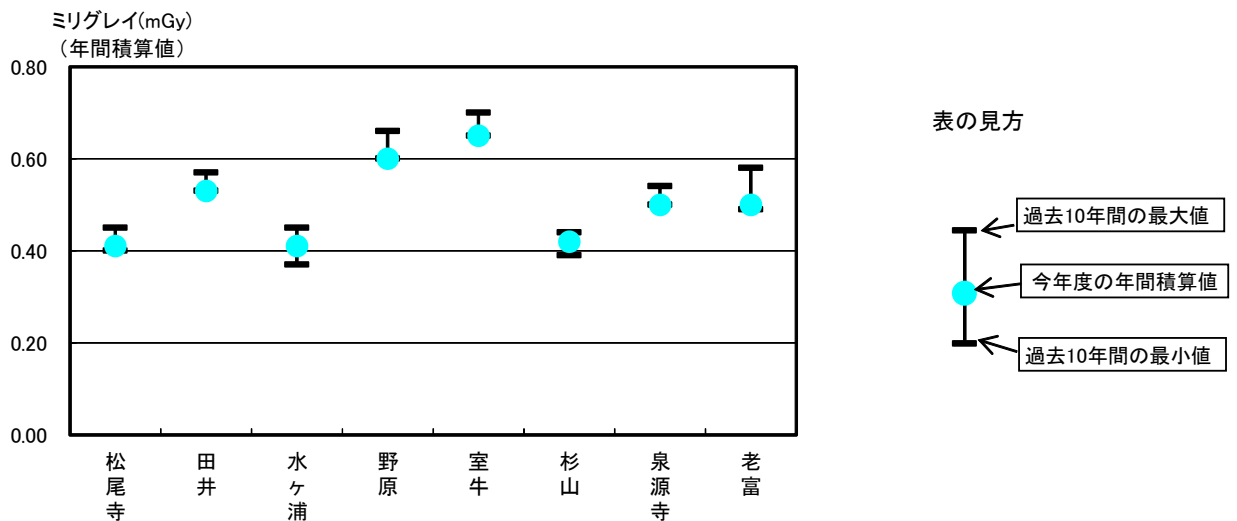
放射線測定所(6か所:舞鶴市内5か所、綾部市内1か所)において、空間放射線が1時間あたりどのくらいであるかを測定しています。

各地点の測定結果は、すべて異常は認められず、安全上問題ありませんでした。



積算線量

モニタリングポイント(26か所)において、空間放射線が3ヶ月間(92日)でどのくらいになるか測定しました。各地点の測定結果は、概ね過去の値の変動範囲内にあり、安全上問題ありませんでした。なお、下の表は8箇所の測定結果をグラフに示したものです。



☆陸上、海洋モニタリングについて

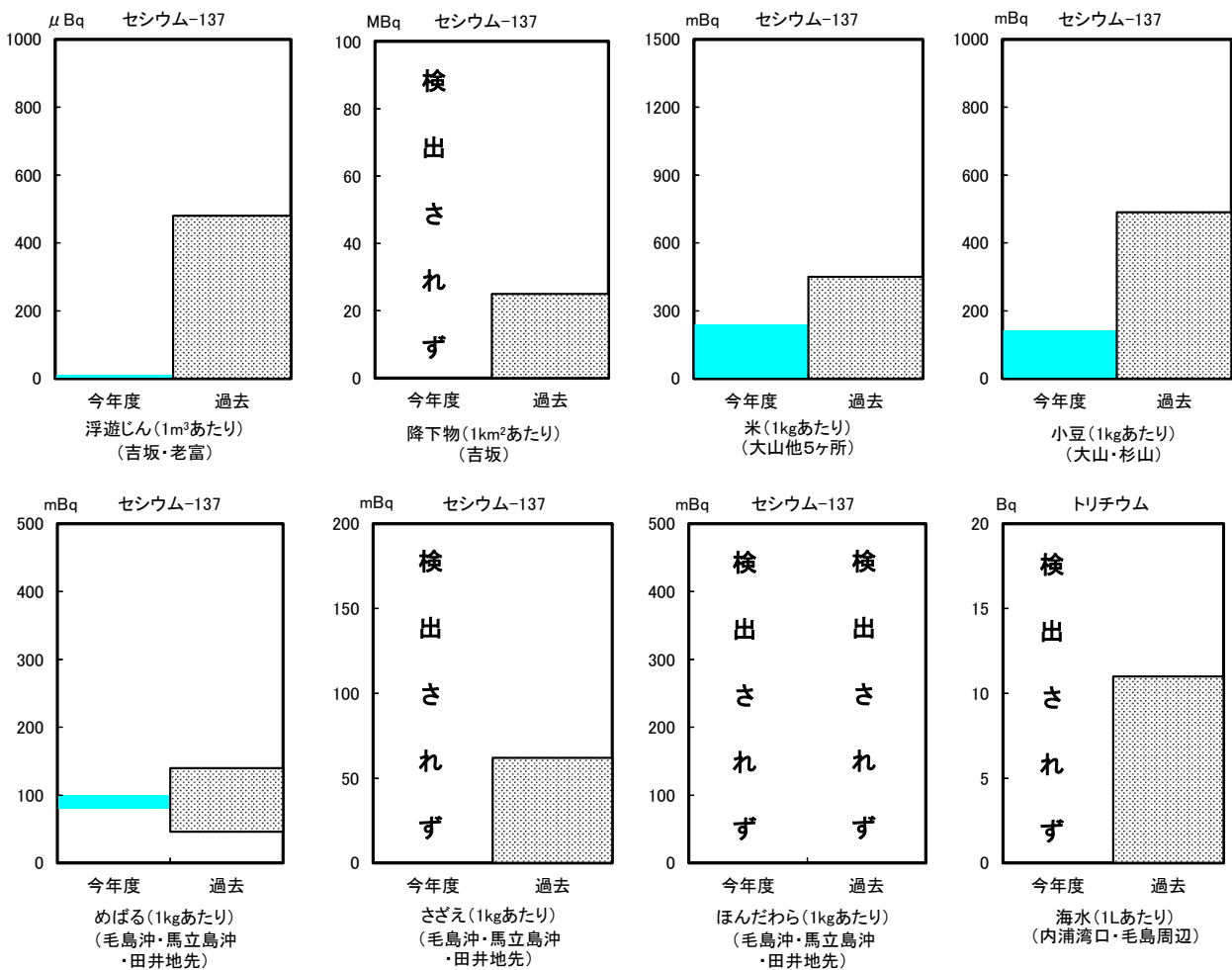
核種分析

私たちが口にする農作物、海産物や牛乳、また、雨や河川水、浮遊じんなどの放射能や含まれる核種について測定を行っています。

過去から検出されているCs-137が検出されましたが、なまこ、あじ及び大根(葉)以外の試料については過去10年間の範囲内でした。なまこ、あじ及び大根(葉)からは過去10年間の最大値を超える値が検出され、今後注視することとします。

また、生椎茸で福島第一原発事故の影響によるものと考えられる半減期の短いCs-134が検出されましたが、過去の検出値と比べて小さい値でした。

なお、トリチウムは自然界にも存在する放射性核種です。
代表的なものについてグラフに示しました。



※過去の値は過去10年間の濃度範囲

2. 温排水影響監視結果

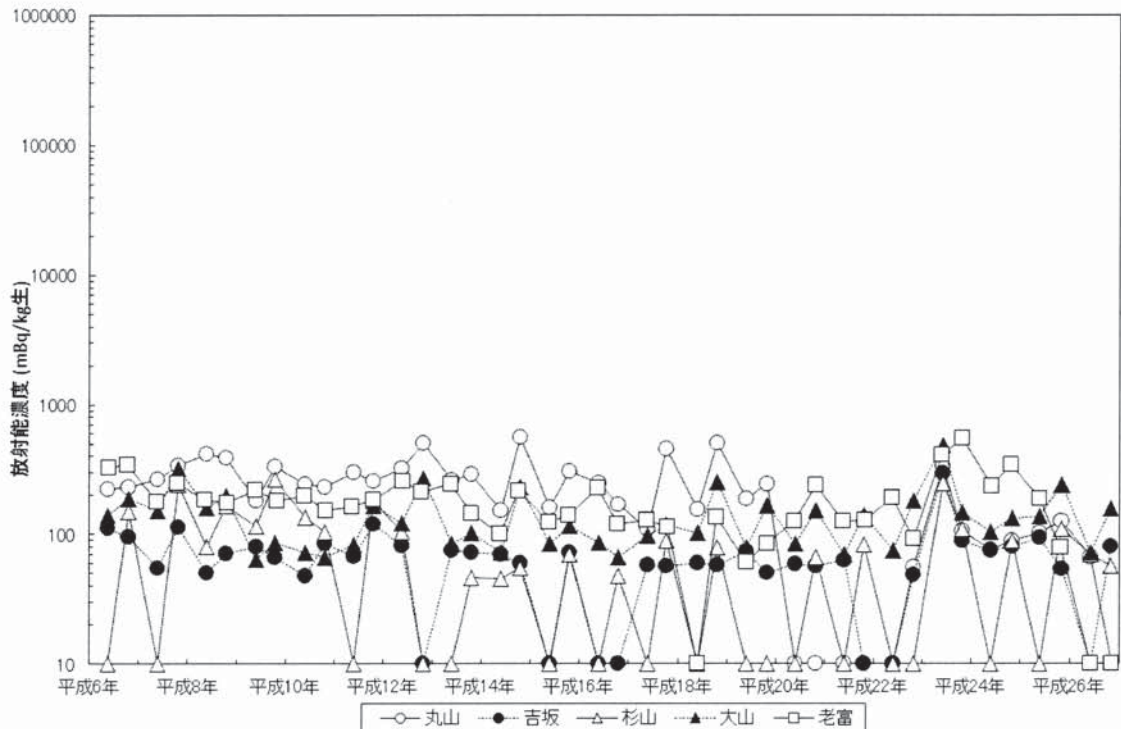
高浜発電所からの温排水の拡散状況を調査しています。

毛島周辺から馬立島周辺に至る25地点における水温、塩分等の分布調査を年6回行った結果、環境安全上問題はありませんでした。

(核種分析の経年変化)

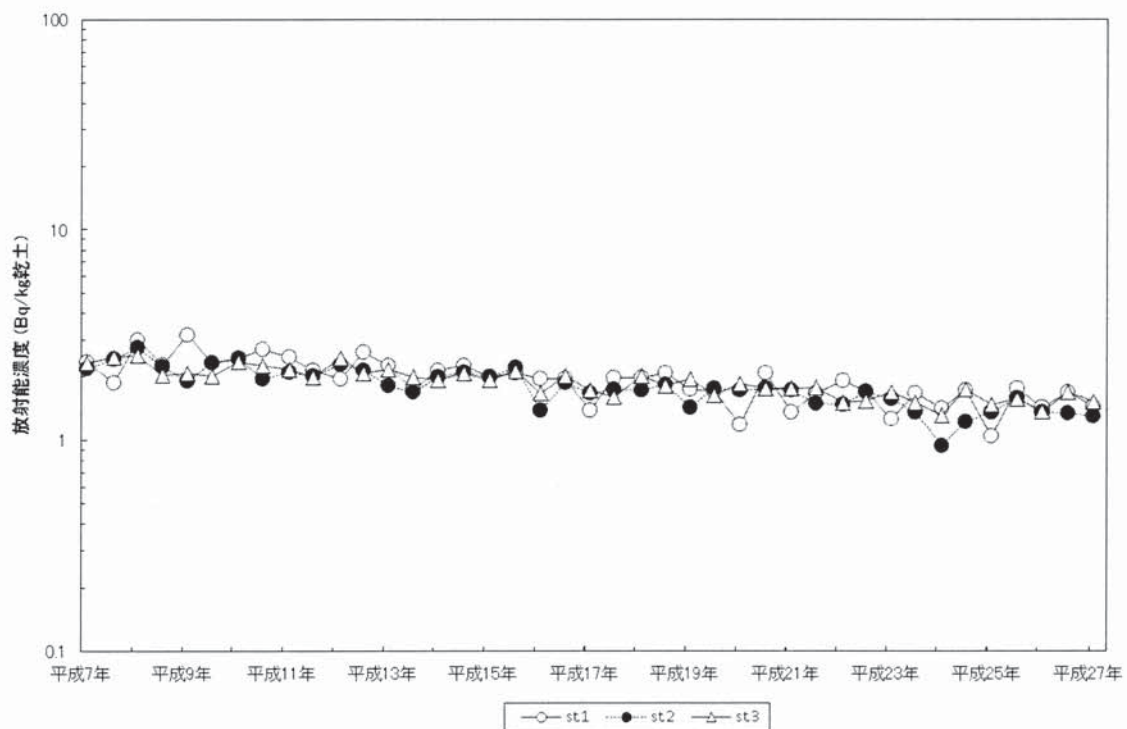
過去の核実験等で放出されたセシウム-137などの人工放射性物質の濃度は、近年、その半減期に従って徐々に衰退しています。

代表的なものについてグラフに示しました。



(注)グラフ作成の便宜上、測定結果が非検出であった場合、値を「10」としてプロットした。

よもぎ中のセシウム-137濃度の経年変化



海底沈積物中のセシウム-137濃度の経年変化